

アル・プラザ城陽で販売体験

府立宇治
支援学校 高等部3年生、窯業製品

府立宇治支援学校(細矢義伸校長)の高等部くらし地域コース3年生14人が27日、アル・プラザ



同校では「市街地の立地条件を生かして、地域との交流を

展開し、地域に貢献する学校」をコンセプトとしている。コロナの影響で、参加した3年生にとって初めての経験となる。

この日生徒は、接客や包装の作業などを行った。作業には、2年生もサポートとして加わった。

販売品目は、スプーン、カップ、大皿、小皿など。接客者は通路を通る人に「いらっしゃいませ」と呼び掛

けていた。購入者があると、現金を預かって事務職員が担当するレジへ。おつりを持って、商品と一緒に購入者へ渡していた。

包装を担当していた出原勝矢さんは、「コップ、お皿、小鉢を作ったという。販売体験の感想を聞かれ、「使ってもらえるのがうれしい」と話した。【写真】販売体験に

臨む生徒ら